



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

早期からの授業改善、つまずきの克服を進めましょう！！ ～全国学力・学習状況調査&みえスタディ・チェックの活用を！～

全国学力・学習状況調査とみえスタディ・チェックを次の3つの活用により、前年度までの学習内容の理解・定着状況を学校全体で確認し、「できなかった」ところを「できる」ようにする取組や授業改善を進めましょう。

1. 調査問題の活用

○調査問題は、授業改善につながるものとして作成！

調査問題は、学習指導要領に基づき、学習指導上、特に重視される点や身に付けるべき力を具体的に示すメッセージです。調査問題をもとに、日常の授業の改善に生かしましょう。

取組例1：調査問題を全教員で解く

取組例2：調査問題のワークシート（学Vivaドリル、学Vivaワークシート等）を授業、補充問題、家庭学習の教材として活用する

2. 児童生徒の解答の活用

○できている問題、できていない問題を把握！

できていない問題の解答（解答類型）に着目し、授業改善や、個に応じたきめ細かな指導につなげましょう。

<子どもたちの解答から見えてくること>

- ・子ども一人ひとりのつまずきや問題に取り組む姿等を具体的に見取ることができる。

既習漢字の使用の有無、記述内容における文章構成や分量、筆圧、文字の状態、消し跡など、データからは読み取れない子どもたちの状況を把握する。

- ・解答類型に分けることで、子どもたちのつまずきが見える。

何年生の学習内容の、どこでつまずいているのかを把握する。

→ 子どもたちのつまずきと学習指導要領の内容をふまえ、早期からの授業改善につなげましょう。

<自校採点を通して>

- ・子どもたちの正答や誤答の傾向から、教員が目の前の子どもたちに必要な授業改善の視点がわかり、子どもたちのつまずきに応じた授業改善を行うことができます。

- ・教員が採点作業の中で、子どもたちの解答を「解答類型」に分けていくことを通し、学習指導要領で求められている力の育成のために、どのような授業改善を図っていくと良いのか知ることができます。

3. 調査結果の活用

○ S-P表の活用を!

誤答の傾向を把握

○「授業サイクル支援ネット」で全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの自校採点結果を入力すると、S-P表が提供され、自校と県の設定問別の平均正答率や平均無解答率が比較でき、子どもたちの「強み」「弱み」や、自分の授業の課題がわかります。

問題番号	4(1)	1(2)	3(1)	2(1)	1(1)
採点	C	A	A	B	AD
標準正答率	97.0	98.0	74.6	70.5	88.6
人数の割合	78.2	75.2	47.6	30.5	50.5
正答人数	16	16	10	10	19
氏名記入欄	[Blank grid for student names]				

正答数が多い子どもは、解答類型2、3の誤答が多い。正答数が少ない子どもは、解答類型4の誤答が多い。だが、何でつまづいているかを把握することで、課題に応じた授業改善や、個のつまづきに応じた手立てが明確になります。(解答類型で採点)

不注意による誤答や比較的克服が容易なものと考えられる問題が分かります。(解答類型1・9で採点)

どちらも、正答した人数は同じだけれど・・・
2(1)→正答数が少ない子どもの理解・定着が図られている。
1(1)→正答数が少ない子どもにとって難しい問題であることが分かります。(解答類型1・9で採点)

解答類型に分けると、誤答のうち、半数以上が無解答であることが分かります。(解答類型で採点)

設問別の解答類型や領域別正答率などから、子どもたちの誤答(つまづき)の要因がどこにあるかを把握・分析し、授業改善に活かしましょう。

こんな設問にも着目!
・正答率が高いが無解答率も高い
・無解答率は低いが正答率も低い

※表中の「1・9で採点」は、「正答○・誤答×による採点」を表しています。

令和3年度第1回みえスタディ・チェック～この問題に着目～

- 三重県教育委員会では、学習内容の定着状況を把握し、各学校における組織的・計画的な授業改善、子ども一人ひとりに応じた指導の充実等を促進するため、みえスタディ・チェックを実施しています。
- これまでの全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの結果に見られた経年的な課題や各学年の学習の積み上げが重要となる内容を中心に問題を構成しています。また、過去の全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックと同一・同趣旨の問題も出題していることから改善状況を把握することができます。

二次の文の部からエまでの中から一つ選びなさい。

祖母が 作った オムレツには チーズも 入っていた。

ア イ ウ エ

<過去の平均正答率>
R2 第2回: 45.4%
R2 第1回: 34.8%
H31 第2回: 37.0%

中学校2年生 国語 [1] 「主語と述語の照応」

小学校5年生 算数 1(3) 「小数の除去の意味についての理解」

(3) 答えが $1.5 \div 3$ の式で求められる問題を、下のアからエまでの中からすべて選んで、その記号を書きましょう。

- ア ジュースが1.5Lあります。このジュースを3人に等しく分けると、一人分は何Lになりますか。
- イ ロープを切って、1.5mのロープを3本作ります。ロープは全部で何mありますか。
- ウ 水を3つのバケツに等しく分けたら、1つ分が1.5Lになりました。はじめに水は何Lありましたか。
- エ 3mの重さが1.5kgのパイプがあります。このパイプ1mの重さは何kgですか。

<過去の平均正答率>
R2 第1回: 47.4% H31 第1回: 37.3%

過去の自校や県の結果と比較することで、授業改善や個に応じた指導に役立てましょう。



子どもたちが「どれくらいできるようになったか」を、確認しましょう。

○子どもたちがどこで何につまづいているか、学校全体で共有しましょう
○子どもたちが「できるようになる取組」を学校全体で進めましょう

1人1台端末の活用スタート！

小学校及び中学校の学習指導要領において、情報活用能力が、言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置づけられ、学校のICT環境整備とICTを活用した学習活動の充実が求められています。

三重県教育委員会では「GIGAスクール構想」の実現に向けて、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するとともに、並行してクラウド活用の推進、ICT機器の整備調達体制の構築、利活用優良事例の普及、利活用PDCAサイクルの効果的運用等を進めることとしています。

<活用事例> 1人1台端末を教材・教具の1つとして効果的に活用することにより、子どもたちの学びを広げたり深めたりすることができます。
桑名市内の小中学校の1人1台学習端末の実践を紹介します。



中学校社会科で「自由権」を取り扱い、シンキングツールを使いながら内容を多角的に分類しました。子どもたちの思考整理という内面的な部分はもちろん、端末が導入される前に行っていたカードを作成し並び替えるという学習活動が省略され、効率化においても効果的でした。



小学校国語科「すがたを変える大豆」で説明文の構成を捉えるために、学習支援ツール^{注)}を活用しました。子どもたちは段落や写真を繋ぎ合わせることで、接続詞や内容に気をつけながら深く読んでいくことができました。

注) ロイロノート

※Google Drive に、より詳しい資料を掲載しています。

<令和3年度の「GIGAスクール構想」の実現に向けた取組>

○アドバイザー及び初期段階対応 GIGA スクールサポーター派遣

三重県教育コンテンツアドバイザー及び三重県 ICT 環境整備（セキュリティ分野）アドバイザーが、主にオンライン会議等で、教育コンテンツ及びセキュリティに関して助言を行います。さらに、ICT支援員が不足している市町には、初期段階 GIGA スクールサポーターを派遣し支援を行います。アドバイザー及びサポーターは、各学校における校内研修等でも活用していただけます。

○共有データベースの充実

クラウド上のファイル共有機能（Google Drive）を活用し、各学校及び各市町等教育委員会、県教育委員会が教材等を共有できるデータベースの充実に図ります。ぜひ御協力いただきますようよろしくお願いいたします。

○1人1台端末活用推進者育成研修

各市町等教育委員会と連携し、各地域で1人1台端末を活用した教育を普及させる推進者を育成することを目的として、「1人1台端末活用推進者育成研修」を実施しています。5月11日（火）に第1回の研修会をオンラインで行いました。

○小中学校における ICT 教育推進連絡会議の開催

「小中学校における ICT 教育推進連絡会議」は、県教育委員会と各市町等教育委員会において、引き続き先進事例や課題の共有等のため実施していきます。

令和3年度教職員研修の充実を目指して

ICT活用指導力の向上を目指します

令和3年度に県内すべての小中学校等において1人1台端末を活用した教育が円滑に実施されることを目的とし、1人1台端末を活用した個別最適化された学びや、協働的な学びをより深く展開させるための実践的な研修を実施します。

情報教育研修

- 集合研修
 - 「1人1台端末での G Suite for Education 活用法」
 - 「1人1台端末での授業支援ツール・ロイロノート活用法」
 - 「1人1台環境で起きた児童・生徒間トラブルと情報モラル教育」
- 遠隔研修 (Zoom)
 - 「なるほど! 小学校プログラミング教育活用講座」
 - 「1人1台端末活用講座-小学校編-」
 - 「1人1台端末活用講座-中学校編-」
 - 「1人1台端末活用講座-高等学校編-」
 - 「1人1台端末活用講座-特別支援学校編-」
- 動画配信研修
 - 「プレゼンだけじゃない! 校務効率化を目指すプレゼンソフト活用講座」
 - 「校務効率化で時短をめざせ! 表計算ソフト活用講座」



情報活用能力の育成

<情報活用の実践力>

- ・必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造
- ・受け手の状況などを踏まえた発信・伝達
- ・課題や目的に応じた情報手段の適切な活用

<情報の科学的な理解>

- ・自らの情報活用を評価・改善するための理論や方法の理解
- ・情報手段の特性の理解

<情報社会に参画する態度>

- ・情報や情報技術の役割や影響の理解
- ・情報モラルの必要性や情報に対する責任
- ・望ましい情報社会の創造への参画

【担当】 三重県教育委員会事務局 研修推進課 テーマ研修班 TEL 059-226-3659

教科等の授業力の向上を目指します

「授業づくり研修」では、講義、協議、実践を組み合わせた研修講座を実施します。

研修講座の流れ



◆講義、協議、実践を組み合わせる研修講座◆

- | | |
|---|---|
| 【国語】「小学校国語授業づくり研修1」
「小学校国語授業づくり研修2」 | 【小学校英語】「小学校英語授業づくり研修1」
「小学校英語授業づくり研修2」 |
| 【社会】「小中学校社会授業づくり研修1」
「小中学校社会授業づくり研修2」 | 【中学校英語】「中学校英語授業づくり研修1」
「中学校英語授業づくり研修2」 |
| 【理科】「小中学校理科授業づくり研修1」
「小中学校理科授業づくり研修2」 | 【高校英語】「高校英語授業づくり研修1」
「高校英語授業づくり研修2」 |
| 【算数・数学】「小中学校算数・数学授業づくり研修1」
「小中学校算数・数学授業づくり研修2」 | |

「授業づくり研修1」と「授業づくり研修2」のそれぞれに申し込みが必要です。

【担当】 三重県教育委員会事務局 研修推進課 教科等研修班 TEL 059-226-3572

※各講座の詳細は、三重県総合教育センターのWebページでご確認ください。